

教育学概論 講義予定

【問題と目的——教育と子どもの歴史を学ぶことがなぜ重要か——】

私たちの多くは、人生のほぼ最初の局面において12年間の学校生活を体験する。個性を重視する教育を受けた場合ですら、私たちは「学校」というきわめて似通った空間を体験して、そこできわめて似通った感覚や知識を得ている。家庭や友人関係の差異にもかかわらず、学校は私たちの中に、きわめて似通った性格を打ち立てる。このように私たちの人間形成に大きな影響を与えている学校であるが、人々が一定の年齢に達したら学校へ行く、という制度ができたのは、歴史的に見ればかなり最近のことである。私たちは、学校で教育を受けることを当たり前のことと考えているが、私たちが自分を理解するためには、学校がいかなるものであり、どのような経緯で私たちの人生の初期を支配するようになったのかを理解することが不可欠である。

私たちはまた、「子どもは学校へ行って勉強するものだ」として、子どもという概念を学校とセットにして考える傾向がある。しかし、子どもに対して私たちが付与している様々な性格が作られたのも歴史的にはかなり最近のことである。児童虐待やいじめ、少年非行・少年犯罪など、現在、子どもをめぐる事件とニュースは絶えることがない。このような問題の根底を正確に理解するためにも、子どもの歴史を把握することは重要である。

【評価】 定期試験100%。

【第I部】 学校と大学の歴史

1 11/21 現代における学校・教育・子ども・家族～学校の歴史（1） 古代

現代におけるいじめ不登校などの学校問題、少年犯罪・少年法などの子ども問題、学力低下や大学入試などの教育問題、児童虐待などの家族の病理など、現代的な問題に対処するためには、まずは学校が成立していく過程を見る必要がある。まず古代ギリシア～古代ローマにおける教育について解説し、当時の学校や教育・学問がどのようなものであったかについて述べる。

【キーワード】 スコレー／弁論術／パイデイアー／アカデメイア／ルードウス

2 11/24 学校の歴史（2） 中世の教育と学校

中世西欧世界における諸学校とカリキュラムがどのようなものであったかについて解説する。

【キーワード】 教会学校／都市学校／自由七科

3 11/28 学校の歴史（3） 中世の大学とルネサンス期の教育

中世西ヨーロッパ世界になぜ、いかにして大学が出現したかについて解説する。また、この動きがルネサンス期における教育とどのように関わるかを述べる。

【キーワード】 12世紀ルネサンス／ユニベルシタス／スコラ哲学／フマニタス

4 12/1 学校の歴史（4） 近代における学校の誕生（ドイツ）

国民すべてに教育を与えるという近代公教育思想がどのように生まれて、どのような理由で政策として実行されていったのかを、公教育の先駆国であるプロイセンについて説明する。

【キーワード】 公教育／ラトケ／コメニウス『大教授学』『世界図絵』／学事通則

5 12/5 学校の歴史（5） 近代における学校の誕生（フランス）

革命とともに公教育制度を作り上げたフランスの事例を歴史に沿って解説していく。

【キーワード】 コレージュ／ラ・シャロット／コンドルセ／国民学寮

6 12/8 学校の歴史（6） 近代における学校の誕生（イギリス）

エリート教育に比して大衆教育が遅れたイギリスについて公教育と産業革命との関係から見ていく。

【キーワード】 パブリック・スクール／ベル＝ランカスター方式／パノプティコン

7 12/12 学校の歴史（7） 近代における学校の誕生〈アメリカ・日本〉

後発国であったアメリカと日本が、西欧諸国の教育制度をどのように取り込んでいったかを概説する。

【キーワード】 ホレス・マン／学制／教育令／森有礼

【第Ⅱ部】 教育の歴史

8 12/15 近代における教育の誕生（1）

18世紀の半ばにルソーが『エミール』という本を書いたことで「汚れなき子ども」のイメージの普及は決定的になった。ルソーがいかんにしてそのような考えに達したかを解説する。

【キーワード】 ルソー／啓蒙思想／『エミール』／消極教育／児童中心主義

9 12/19 近代における教育の誕生（2）

ルソーの思想がどのようにして教育学思想を形成していったかについて、ペスタロッチ、フレーベルなどを取り上げて解説する。

【キーワード】 ペスタロッチ／直観主義／フレーベル／恩物／幼稚園

10 12/22 児童科学の成立と発展—児童中心主義・児童研究と心理学—

モンテッソーリやデュエイなど、20世紀の児童中心主義の思想について解説する。また、心理学がいかんにして成立したか、また児童心理学との関係はどのようなものであったかについて解説する。さらに20世紀の教育学と発達心理学の展開について概説する。

【キーワード】 『児童の世紀』／モンテッソーリ／デュエイ／タブラ・ラサ／発達心理学

【第Ⅲ部】 子どもの歴史

11 1/12 近代における子ども・家族の誕生（1）『「子ども」の誕生』

「子ども」という表象が近代においてどのようにして生まれたのかを、フィリップ・アリエスの『アンシャンレジーム期の子どもと家族生活』（1960）にもとづいて解説する。

【キーワード】 アリエス／『〈子供〉の誕生』／マンタリテ／スウォドリング

12 1/16 近代における子ども・家族の誕生（2） 近代家族の誕生

愛情によって結ばれた「家族」がどのようにして登場したかを、E.ショーター『近代家族の形成』（1975）などをもとに解説する。

【キーワード】 ブルジョワ型単婚家族／感情革命／情愛的個人主義

13 1/19 近代における子ども・家族の誕生（3） 児童文学の誕生

「子ども」を純粹無垢なものとして制度化していくのに寄与したのが、児童文学であった。「子ども」にふさわしい読み物としての児童文学がいかんにして成立したのかを解説する。

【キーワード】 チャップブックス／ペロー寓話／スウィフト『ガリヴァ旅行記』

14 1/23 近代における子ども・家族の誕生（4） 児童文学の発展

「子ども」というものが成立してくる過程は、『ペロー寓話集』から『グリム童話集』、またその改版過程に如実に見ることができる。「赤ずきん」「シンデレラ」「ラプンツェル」などの変更がどのような意味を持っているのか解説し、その後の児童文学の展開と日本の児童文学史について述べる。

【キーワード】 初版グリム／アンデルセン／『ハイジ』／『ピーター・パン』／巖谷小波／『赤い鳥』